

周術期の口腔管理について



こあら新聞

第33号

担当 長澤 優香

はじめに



皆さんもご存知のとおり、わが国が超高齢社会となった今、加齢と伴に病気に罹患する率が上昇し、口腔に関するトラブルも増えてきました。

また、現在の日本における死因の第1位として「癌」が挙げられています。その治療を行うべく、いく上で歯科との連携が重要視されています。

それはなぜなのでしょう。

今回は口腔に関する癌治療に伴うトラブルを中心に、改めて口腔と全身の関わりを知っていただけたらと思います。

口腔と癌の関わり



そもそもなぜ最近になって改めて医科と歯科との連携が注目されているのでしょうか。

それは、癌の治療をするにあたって周術期の口腔管理の介入により副作用が軽減される、副作用

によって粘膜炎を起こし癌の治療を中断してしまう患者が減る、感染症や合併症の発生率が下がるなどのがん治療の成績に影響してきただけです。

例えば、がん治療は大きく分けて手術療法と化学療法、放射線療法の3つに分けられますが、病変の広がりや転移の有無によって単独、あるいは組み合わせで治療を行います。

その際に起こる副作用として、

口腔粘膜炎

抗癌剤によって細胞が損傷、さらに組織の修復が抑制されて炎症が拡大していくことによって起こります。口腔内の疼痛によって経口摂取がしにくくなり、体力低下や感染へとつながります。

出血

癌による影響や抗癌剤の副作用によって肝機能障害があれば、血液を固めるたんぱく質の生産が減少し出血傾向をきたします。血液中に細菌が入り込んで感染してしまうリスクもあります。

感染症

癌治療によって免疫が落ちてくるため、口腔外から菌が侵入し感染症を起こしやすくなっている上に、カンジダや歯周病菌等の口腔内の常在菌による感染または悪化を起します。その菌が気管内に侵入して肺炎を起こす合併症の危険があります。

味覚障害

味を感じる細胞が障害を受け、脳に伝達できなくなります。または細胞がダメージを受ける、消失してしまつたため食欲不振に陥りやすくなります。

知覚障害

薬剤によっては末梢神経障害をきたし、しみるように感じる場合があります。

口腔乾燥症

唾液腺の細胞が変性して唾液の分泌が低下するため経口摂取が困難となり、食欲不振による脱水症状等を招いてしまいます。

嚥下機能の低下

局所の炎症や疼痛によって嚥下運動の障害、嚥下反射の遅延が起る場合があります。

※頭頸部癌では、頭部から頸部まで放射線の照射領域にあるため特に口腔粘膜炎を起ししやすい

このように、口腔内だけでも様々な症状を引き起こし、中には命に関わる重篤な感染症を引き起こすなど、治療を継続していく上でも成功する上でも、口腔管理は重要になってくるのです。

また、副作用だけではなく、手術の際にも口腔を管理しておくことは大切です。感染に留意することとはもちろんですが、手術時の全身麻酔の際にも注意が必要です。それは、気道を確保するための管を入れる時に、歯周病によってぐらついていた歯が抜けてしまう、根元がむし歯になっていた歯や外れかかっていた差し歯が折れてしまうなどの偶発症が起る場合があります。未治療のまま放置しておくのは危険だということです。

予防&改善法

上記のことをふまえると、いかに治療を行う上で口腔管理が大切かお分かりいただけたかと思えます。

では、実際に口腔内をどのような状態に維持できればいいのでしょうか。

治療を行う前後の時期に分けてみると、

治療前：歯科を受診し必要な治療を受ける、口腔管理の仕方について改めて知っておく

治療中：ブラッシングやうがいを行い、口腔内を清潔に保持する

治療後：経過観察と平行してメイntenランスを受ける

と、状態によって変わってきます。

まず大切なのは、治療開始前にご自身の口腔内の状態を把握することです。できるだけ必要な歯の治療を行っておいた上で、さらに治療中は副作用による症状を把握し、口腔ケアを見直すことが重要になってきます。

具体的なケアとしては、患部に当たらないように小さめでスリムな歯ブラシ（出血がある、または痛ければ毛先のやわらかいもの）を使用し細菌を除去します。その際に大切なのはできるだけ歯牙のみをねらって当てることです。

薬の副作用等によって出血しやすくなっているから、口腔内の常在菌が血液に入ると感染症を引き起こさないよう注意が必要です。

また、刺激の少ない薬剤を服用するのがいいは、ブラッシングが困難な際にも有効なので、こまめに行い口腔内を保湿することが大切です。

癌の治療中はなかなか隅々まで気を配るのは難しいですが、口腔にトラブルが起ると、癌の治療を継続していく上でも、早期の退院を目指す上でも大きな妨げになってしまうため、口腔の管理はとても重要なのです。

最後に



健康な口腔内を維持するということ、それは生活を送る上で栄養摂取を行うという目的だけでなく、会話や表情を形作るためには欠かせないものです。

長寿化する現代では、「病氣」に罹らないといった方のほうが少ないと思います。それを乗り越えて豊かな人生を歩まれる方々へ、歯科の立場で寄り添えるように心がけていきたいと思っています。

ごあら先生より一言

一年の終りと初め、この時期は何とも言えない一瞬です。

上山温泉に行ってきました
近場でパワー注入
吉田

来年は料理頑張ります
魚を捌けるようにしたい
長澤

先日嵐のコンサートに行きとても感動、興奮しました
板坂

スタッフの広場